

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>



病児保育 協議会ニュース



= 今号の目次 = 第13回総会・研修会特集	
1頁 協議会メール、行政説明	6頁 ワークショップ2まとめ
2頁 基礎セミナー、病(後)児保育室自己評価 基準全国調査報告・病児保育室実態調査中間報告	6頁 ワークショップ3まとめ 特別講演まとめ これからの保育を求めて にこにこトマトってなんだろう
3頁 基調講演まとめ、分科会1まとめ 分科会2前半まとめ	7頁 全国病児保育協議会常任協議会議事録 第13回全国病児保育協議会総会議事録
4頁 分科会2後半まとめ、分科会3まとめ 分科会4まとめ	8頁 第13回全国病児保育協議会総会議事録 平成15年母子保健家族計画全国大会開催 のお知らせ
5頁 分科会5まとめ、ワークショップ1まとめ	

協議会メール

第13回全国病児保育協議会総会・研修会を終えて

研修委員長 二宮剛美

前回12月の研修会から僅か7ヶ月後の開催にもかかわらず、千里ライオンサイエンスセンターへの参加者数はさらに増加して407名でした。

沖縄から北海道まで、協議会の名の通り全国から仲間が集まりました。先進的で実績のある横浜と千葉市役所からも人柄の良いお二人に参加していただき、窓口では聞けないお話も伺うことが出来ました。

初参加の人は基礎セミナーや帆

足英一先生の基調講演に満足されたことでしょう。それぞれの分科会やワークショップの報告や印象はリーダーや司会におまかせしましょう。

前回から始めた託児所も好評でした。広告費も懇親会のゲーム景品のアイスクリーム代にも廻せました。

最終日午後の橋本武夫先生、神田美子氏の特別講演を聴かれた方は、笑いあり感動ありの楽しくて為になる良い時間を共有出来まし

た。

平成16年の研修会は、同じ人間の企画によるマンネリ化を防ぎ、開催地周辺関係者への広報効果や未だ参加できなかった人達の参加を容易にして、それぞれの地域ブロックの活性化を図るためにも、来年の研修会は井崎和夫先生により横浜市で開催していただくことが決まりました。

おしゃれな街、横浜での研修会を楽しみにして私の報告はこれでシュマイ。

行政説明のまとめ

全国病児保育協議会会長 藤本 保

例年大好評で、会員の皆様、参加者全ての方々が期待していました厚生労働省母子保健課による行政説明は、止む得ない理由のため突然講師が来られなくなりました。非常に残念ではありましたが、講師に予定された方の御身内にご不幸があり、あまりに日程が接近していて急であったため、代理を立てることが出来ないと言うものでした。予め用意されていました資料を基に、二宮先生の解説と意

見交換という形になりましたが、参加者の忌憚のないご意見やご要望が聞け有意義であったと思っています。このとき出された以下のようなご要望を持って厚労省に陳情に参りたいと思っています。

健康支援一時預かり事業は、どの法律にも載っていない事業である。協議会としてこの事業を法文化させるよう努力して欲しい。児童福祉法、医療法いずれにもない。次世代育成支援対策推進法の中に

でも明文化してもらえないのか。

現在の状況では人件費もまかなえない、赤字である、補助金の増額を要望する。

4人定員であると年間1000人以上利用の達成は困難である。もっと低い数値に達成目標をおいて追加補助をして貰えないか。などでした。

さらに、追加して要望がある場合は事務局まで連絡ください。直ぐに実現可能かどうかは別として、貴重なご意見要望は厚労省へ届け、協議会として実現に向け努力いたします。

基礎セミナー

総論まとめ
枚方病児保育室
堀田 和子

昨年引き続き、行われた基礎セミナー総論で、講師はむかいだ小児科キッズハウスの院長で、当協議会の副会長向田隆道先生でした。病児保育の理念から始まり、定義、歴史、そしてエンゼルプランについてもお話いただきました。パワーポイントを使っての、わかりやすい講演で、初めての人に

は病児保育がよく理解できたことでしょう。また、この機会を利用して再確認できた人も多かったと思います。ライフホールは設備もよく、200名以上の参加者が聞き入っていました。

また、病児保育の多様な受け皿のところでは、保育所型の園内方式に特別保育事業加算のことが話題になり、質問もあって、これからの協議会として考えていく検討事項が浮きぼりにされたように感じました。



講師の向田先生

そして、さらに具体的な病状の話もでたりして、幅広く、全国の状況を踏まえての話は、1時間30分休憩のないまま終わりに近づき、保育と看護と医療の接点で、究極の育児支援と自負し、現在の重要な役割を認識し、毎日の仕事に臨みたいという結びとなりました。有意義でした。

手洗いについてのお話は、日常的に何気なく行っていることですが、実際の写真などもあり、洗いをその場で実践し体で覚えることができました。1分間の手洗いが理想とのことでしたが、結構長く感じました。

「看護師のための保育知識」もできれば聞きたかったという意見もありましたので、今回は「保育看護」という講座の中に「保育」看護」と両方聞けるようにしていただくと思います。

保育士のための看護知識のまとめ
きらら病児保育室
森田 倫代



講師の大井先生

今回は保育士と看護師を分けての研修でした。「感染症と予防」というお話でしたが、1970年以降に出現した新興感染症や再流行感染

症などの話や感染経路などについて確認することができました。パワーポイントを使用してお話で画面はとても見やすかったのですが保育士にとっては聞き慣れない病気の名前が多く暗くて記録がとりにくかったのが残念でした。資料が欲しいという要望が講演終了後多かったので、今回は、パワーポイントで使用した表などを事前に配布していただければと思います。研修報告をするためにも必要とのことでした。

看護師のための保育知識のまとめ
枚方病児保育室
堀田 和子

昨年より大幅に時間がふえたセミナーで、題目から看護師が集まると予想されるなか、何名の参加があるかわからずに時間を迎えました。保育士も参加をとの呼びかけに、応えてくれた人もあり、40名位の講演会でした。

講師は、ほあし子どものこころ



講師の帆足先生

クリニック副院長の帆足暁子先生でした。病児保育の保育ではなく、もっと広い意味での保育の基礎からのお話でした。保育の定義、保育内容、保育方法、保育計画、保育評価と続き、聞いているとよくわかるのですが、現場でどこまで実行できているか、実行できるかとなると・・・かなり難しい面

もあるように感じました。たとえば、保育計画の年間計画はできて、月案ができない。計画に基づいての実践をどのように記録していくか。そして評価と次へのフィードバックなど。参加者の中に戸惑いが見える場面もありました。

でも、帆足暁子先生のアドバイスをもらうなかで、明日からまた取り組んでいこうという気持ちになれたのではないのでしょうか。おつかれさま。

全国病児保育室調査報告

—自己評価基準・実態調査中間報告まとめ—

聖徳短期大学 野原 八千代

調査研究委員会から二つの報告があった。一つは病(後)児保育室自己評価基準全国調査報告(平田調査研究委員長より)、一つは全国病児保育室実態調査中間報告(副会長より)である。自己評価基準の調査の回収率は60.2%であった。

項目ごとでみた場合、達成率が低いものに、スタッフの教育・研修、保険加入の項目があげられ、保険加入では協議会としての難形が必要ではないかという意見もだされた。全般的には項目ごとの達成度は高く、各施設において保育室の質を高める努力がなされ事

業が行われていることが推察された。

実態調査では、5/19～6/15の調査期間の回収率が45%と低く、中間報告にはならないとし、その傾向について全項目から主要な項目を抽出し説明がなされた。開設認可に際してのトラブルの内容、

定員数と最大収容可能な人数、保育時間・延長保育と可能な時間、土曜日の利用状況、入室登録制の実状、対応している対象児(回

復期のみか急性期も対応しているのか)、運営面で補助金の受け取りの状況、収支内容や病(後)児保育を行うことのメリット、デメ

リットなど。調査は期間を延長し行うので、未回答施設への協力依頼があった。

基調講演まとめ

「病(後)児保育 - 親子の健康支援目指して - 」

ほあし子どものこころクリニック 院長
全国病児保育協議会 顧問

帆足 英一 先生
座長 保坂小児クリニック
理事長 保坂 智子



講師の帆足先生
ポイントを含み、明晰な語り口ですすめられた。開設間もない参加

全国病児保育協議会研修会の必修講演(講義)の趣きとなった帆足先生の基調講演は今回も示唆に富む重要な

者のための「2対1の人員配置」と「看護師必置」の意味するものから始まり、「保育看護の専門性について」「病児保育における予薬の留意点」「事故が生じた時の対応」「豊かなこころの育ちを支える」等。

特に事故対応についてのノウハウはあらためて的確な指摘の数々

を示され「個人プレイではなく組織として対応する」「時間系列で客観的事実を把握」「窓口の一本化」「事実関係について誠意をもって家族に説明」その他、いざ各自の病児保育室内で事故!という時の各担当者の認識をふかめ整理するのに非常に役立つものと思われた。

「豊かなこころの育ちを支える」も子ども達の母親との愛着関係と自我発達、形成の経過、それを援助する心を示され興味深いものであった。

分科会報告

分科会 1 まとめ

なんでも相談 Q & A 高橋小児科病児保育室ぞうさん

高橋 良明

30数人の集まりで始まり活発な討論質問が行われました。

補助の申請と認可についてのやり方や2市町村にまたがる場合の補助の配分など

施設面(イ)医療機関併設型(ロ)保育園併設型(ハ)乳児院併設型の中でソフトとして(1)寝具リネンの消毒(2)玩具の消毒(3)保育教材(4)持ち物。ハー

ド面では(1)保育室観察室の面積や消毒のしかた。病児の入所配分のしかた(2)調理室調乳室の工夫(3)トイレ洗面所換気設備の工夫や消毒など。(4)各部屋や設備の消毒の仕方

人員については常勤保育士看護師、オンコール保育士の採用や職員のやりがいを見出すことなど。

運営については(1)1人あたりの徴収する料金(2)補助対象外の病児のうけいれ料金(3)事故保障と損害賠償保険(4)給食の有無(5)責任の所在などを自治体と良く協議しなくてはならないこと(5)健康保険請求と診察や回診などのかねあいなどに活発な意見交換が行われました。

まだ、病児保育室を開設されていない施設、開設してはいるが補助が認められていない施設からの具体的な質問が多く有意義な分科会であったと思いました。

分科会 2 前半まとめ

自由演題 前半

八尾徳州会病院

神原 雪子

今回分科会2(自由演題)の司会をさせていただきました。椅子がたりない程の盛況ぶり、みんな熱心に質問も活発に討議されていました。

演題 病児保育実習生受け入れマニュアルでは、要点を項目としてあげ、第三者評価につながるようなマニュアル作りをされていま

した。
新規ブロック学習会の立ち上げと運営の工夫として小規模でも、病児保育の質の向上と横の連携をとるための提案を発表されました。(1、2ともすみれこどもケアル-ム)

ケアル-ムで経験したインシデントの分析・検討(大分こども

病院キッズケアル-ム)では薬袋の渡しまちがいより同じミスを起こさないため、インシデントを分析しそのための予防方法を考案されていました。

利用者満足度をあげるための取り組み(四日市市病児保育室カンガル-ム)ではISO9001を取得し、評価機構を入れながら自施設のサ-ビスの向上に努めているという発表でした。

それぞれに工夫され、さらなる病児保育の発展に期待のもてる内容でした。

分科会 2 まとめ

自由演題 後半

中野こども病院

囿府寺 美

前回に続き、多彩な一般演題が
出され、ディスカッションも活発
でした。「閉園時間以後の迎いの
現状」では、延長料金を自己負担
させる、常習者にこんこんと言っ
て聞かせる、ファミリーサポー
ターを紹介するといった参加者の
施設での対処法も披露され、それ
ぞれ苦心されている様子が伺われ
ました。「手作り遊具」は動画を
使ったプレゼンテーションで、楽
しげな遊具と子どもたちの生き生

きた様子がよく伝わってきました。
ディスカッションでは、いかに
清潔にするかが課題で、布や紙
で作ったものは持って帰らせる、
あるいは早期に処分していくなど
の工夫・意見が出ていました。病
児を預かる保育士ならではの問
題意識を持って取り組んでいるの
がよくわかりました。「お茶による
含嗽」は年余にわたる職員の意
識調査とそれに基づく目標と実績
など、実にきちんとしたデータの下

に施設の努力がにじみ出る発表で
した。保育所や病児保育室に限ら
ず、小児を扱う病院や施設でも即
役立てられそうな、明日からでも
始めて欲しい内容でした。

「病児保育室外での病児支援」
では、保育サポーターの位置づけ
が行政区分で異なり、現状ではそ
の存在自体が混沌としている問題
点が浮かび上がってきました。広
く活用できるように、啓発と質の
向上のためのサポートが必要と感
じました。こういった自由演題は、
発表することで日常の問題点が明
確になり、1施設にとどまらず、
広く病児保育の質を高めていくこ
とにつながると思います。

分科会 3 まとめ

保育園型病後児保育(家庭的保育をめざして)

ききょう保育園病後児保育室ひまわり

山田 静子

新エンゼル・プランに「保育園
型病後児保育」が加えられたため、
今までの研修会にはなかった保育
園型の分科会の必要を感じるよう
になっていました。常任委員会
でも了解が得られましたので、は
じめ開催しましたが60人の参加
がありました。

3本の提案は制度が始まって3
年、保育園併設型は日が浅く、ま
だ1~2年余りの実践を試行錯誤
で取り組んでいる最中の発表です
から、3本のレポートは問題提起
になって討論が結構活発になった
のは、よかったです。

保育園併設型で共通して今回浮
き彫りになった問題は、職員間の
理解が不十分である。多くの子

もを相手に忙しく保育をしている
クラス担任たちから、2対1の保
育は楽そうに見えて不満となっ
ている場合がある。利用者のいな
い日にクラス保育の職員と、どの
ような協力関係が日頃できている
かどうか。また次のような課題が
見えてきました。

保育園の場合、「病後児保育」
の意味が曖昧になっているケース
がある。病後児保育の保育時間
には「延長保育」はない。そのた
め朝・夕の保育を園児と一緒にし
ているところがある。また、病後
児だけど幼児になると活動だけ
はクラスでさせたいと考えて実
施している。まずいのではないか。

病後児保育室を医務室代わ

りに使っている園がある。保育
中に発病すると病後児保育室で
みる。この場合はサービスなので、
利用料は請求できないとのこと。

その他医師の診察なしで利
用しているケース。利用者が伸
びない悩み。医療機関との連携の
問題。

最後に、「病後児保育」に取
組み出したきっかけは、それぞ
れの園でさまざまです。以前から
行政に働きかけて運動をしている
が、医院併設型しか実施してい
ないので、園独自に始めている園、
保育園の設立、改築に条件をつけ
られて(仕方なく)実施すること
になったところ、園長は積極的
だが職員との間にギャップがあ
る、「病児」と「病後児」の線
引きはどこにあるの?等々、参
加者は日頃思っていることを、
本音をさらけ出しながらかし
合ふことの出来た分科会であり
ました。

分科会 4 まとめ

高実績施設からのワンポイントアドバイス

宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター

松本 良文

分科会4は「高実績施設から
のワンポイントアドバイス」と言
うことで、エンゼル多摩の三浦
看護師、長崎あひるっ子ルーム
の福田先生、沖縄安謝クリニック
の高良先生と私の4名からの提
案をいただきました。各施設とも
高実績をあげられているだけあ
って、大変熱心に病児保育事業
に取り組んでおられました。エン
ゼル多摩はセ

ンター方式で他の3施設は医療
機関併設型でしたが、各施設に
いろいろな特色があり、それを
生かして実績をあげられている
のがフロアーの参加者の皆様
にも実感していただけたと思
います。例えば、エンゼル多
摩ではスケールメリットを生か
して待機児童がないように大
勢の子供を受け入れることが
出来たり、あひるっ子ルーム
では、

立地がオフィス街にあり働く保
護者にとって便利であったりし
ています。

ただ、こうした事だけでは高
実績があげられるはずもなく、
やはり利用者のニーズに対して
細かく対応していくことが大切
である事が各施設の共通した意
見でした。また、高良先生は地
元医師会の協力も得られている
とのことで、今回提案のなか
からなかった保育園併設型・
単独型においても囑託医だけ
ではなく医師会と連携をとれば
病後児だけでなく病児も保育
可能となる事が示唆されました。
ただ、何

とか重症の子供でも預かって育児支援をしたいとの思いから医療機関併設型において病児保育室内で

医療行為が行われることがあり、会長からは「病児保育室内での医療行為は当協議会としては行わな

いというコンセンサスが得られているので、今後ご注意願いたい」とのコメントもありました。

分科会 5 まとめ

パートナーシップとしての行政とのあゆみ まなこどもクリニック・ポピンズルーム

原木 真名

この分科会には、発表者として、名古屋市の前田先生、横浜市の子育て支援事業本部の山本氏、千葉市の子育て支援課の長谷川氏、千葉市の親の会の大岡氏、助言者として横浜市の井崎先生が御出席されました。出席者は途中多少の出入りがありましたが、おおよそ33名、各施設の施設長、今後開設を考えている施設の方達の御参加がほとんどでした。

まず、それぞれの発表がありました。前田先生は、名古屋市の御苦労されている現状について。長谷川氏は、千葉市の病児保育事業を実施するに至るまでの過程や、補助金を増やすための財務課との交渉などについて、行政の生の声を。親の会の大岡氏からは、病児保育の必要性を痛切に訴え続けた活動の経過報告。山本氏は、現在3ヶ所ある病後児保育室の現状、

今後の事業方針などについて。

その後の討論では、
・行政側に意見を取り入れてもらうルートとしては、どのようなものが効果的か。

・地方自治体単独の補助金を上乘せしてもらうにはどのように渉するのが良いか。などについて討論されました。行政官が、私達の要望をどのように受け止め、どのようにして予算を確保するべく役所内部で努力しているか、その裏側が垣間見えました。

今後、行政と交渉していく際の参考になる情報が得られ、有意義な分科会であったと思います。

ワークショップ報告

ワークショップ 1 まとめ

厨房施設衛生管理基準

城東こどもクリニックことりの森

赤平 幸子

病児への食事は施設形態の違いで食事内容や提供方法も変わってきます。しかし食事の提供方法論については、基本的な部分でどの形態に於いても共通の認識が必要であると考えます。

このWSはその共通の認識を厨房施設衛生管理基準としてマニュアル化させたいという目的をもって立ち上げました。残念ながら参

加された施設に保育所型の参加はありませんでした。こじんまりしたWSでしたが医師・調理師・栄養士・保育士・看護師による多職種参加は、病児保育に関わるスタッフがどれだけ食事の内容以前の衛生管理について意識できているか等々「共通した認識は絶対に必要」ということを確認することができました。

また開設準備施設のためにも具体的なマニュアルの必要性を再確認することができました。今後の計画として厨房衛生管理(ソフトとハード)に関するアンケート調査、スタッフの衛生管理マニュアル、施設形態および食事の提供方法別施設基準、食品衛生管理基準・等の提案とマニュアル作成作業を行っていく予定です。

これから施設形態を問わず皆さんに協力していただきたいことがたくさんありますのでよろしくお願いたします!

ワークショップ 2 まとめ

病児のための遊び提供

宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター

木村美麻・野中 望由紀

今回のワークショップ2では、最終78名と予想以上に参加者が多かったため、2グループに分かれ、最後は全員でエプロンシアターを鑑賞しました。

宇治病院からは、普段子どもが大好きなおもちゃ『手作りおもちゃ』を紹介されました。

乳児 *でんでん太鼓(ひなまつり編) *ゆきんこスキー

幼児 *水車 *けん玉紹介

材料は、ペットボトル等の廃材を利用し、材料費がかからないよ

うに工夫しています。また、日々年齢や子どもに合わせて内容を発展したり、子ども達のユニーク発想を取り入れています。

当日は、参加者の方に実際作ってもらい、いろいろなおもちゃの発見やみんなで話しながら制作が進みました。みなさん、装飾に凝る姿も見られ、各施設個性的な物からアレンジした作品まで様々見受けられました。

制作終了後、少し時間が短くなったため、各施設が日常どの

ような手作りおもちゃを使っているのか?等の交流する時間が少なくなりました。もう少し時間配分を考慮した方が良かったと思います。

また、参加者の方から、「早速、帰ってやってみます!」や「こんなかわいいのができるのね!」と声がきかれました。



楽しそうなワークショップ風景

..... ワークショップ3まとめ

インシデントレポート

よいこ病児保育室

畑 晶子

「インシデントレポート」では、31名の参加で、ディスカッションしやすいようにグループ分けをし、3つに分かれての3時間となりました。リーダーシップに乏しい私が、生まれて初めての役割となり、四日市市病児保育室カンガルーの小川事務長に助っ人をお願いし、ほとんどをおんぶにだっこ.....。反省することしきりで

す。小川事務長さんに感謝！さて、ディスカッション前半は自己紹介も兼ねて、自分たちの施設で、レポート活用しているかどうか等自由に話していただきました。各グループ活発なディスカッションで、皆さんトイレ休憩もとれない程で、中には半分お尻を上げて話していた方もいたとかいいたるか.....。(私です.....)

それ位活発に話し合える雰囲気で作れたのは、参加者皆さんの努力の賜物です。「ワークショップとは？」という資料も入れた効果でしょうか？

後半は各グループの報告と質疑応答となり、レポートの活用方法や実際に起こったインシデントについての発表となりました。リーダーとしては何か一つでも各施設へ持ち帰っていただけたらという思いをこめながら、あつという間の3時間でした。

特別講演まとめ

これからの保育を求めて

- Hug は百薬の長なり -
聖マリア病院母子総合医療センター長 橋本 武夫 先生
座長 ほあし子どものこころクリニック 院長 帆足 英一



講師の橋本先生

冒頭で、オッパイが本当に出ない母親は2~5%にすぎない。しかし、多くの母親は適切なサポートが受けられず、母乳が出ないことで母親失格と悩んでいる。病児保育も同じで、せめて病気になったとき位は自分で面倒をみたいと思っても、面倒をみられない。それを支えているのが病児保育である、と述べられた。

以下、私の印象に残る橋本先生のお話の要旨をご紹介します。「抱いて、語りかけて、おっぱい!!!」をキーワードとして、様々な研究成果にふれながら、1歳までの育児が母子関係の原点であり、子どものみならずお母さんも支えて欲しいと強調された。この「抱いて、語りかけて、おっぱい!!!」は、育児の3原則であると共に、「保育の3原則」でもある。とくに「新生児」は「神生児」であり、胎児期、分娩、母性行動、とくに出産直後の2時

間にみられる新生児覚醒によるときすまされた五感の持つ意味、重要性等を、神秘的かつ実証的に分かりやすく述べられた。

また、「甘え」することは、基本的信頼関係を樹立する上で重要であり、Hug & Touchが重要であると述べている。その上で、幼児期には「甘え」からの自立が大切となる。そのためには、やりたいときにやりたいことをさせたかどうかが問題となる。大声で叱ったりといった、こわがらせてやめさせるというのはとんでもないことである。

多くの参加者が感銘を受け、明日からの病児保育に向けて、「Hug & Touch」を大切にしていけることを確信した特別講演であった。

「にこにこトマト」ってなんだろう

京都大学医学部附属小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」事務局代表・コーディネーター
神田 美子 氏
座長 大分こども病院 キッズケアルーム 院長 藤本 保



講師の神田先生

講師の神田美子さんは、大阪市阿倍野区のご出身で、関西学院大学文学部史学科を卒業され、ており中学校・高校の教員免許を取得されましたが教員になるどころか就職そのものをされず、結婚され京都に住

まれることになり今日に至ったこのことです。1992年6月、当時小学校5年生であったご長女が血液疾患で京大病院小児科に9ヶ月入院され、ご主人と次女のお子様を家に残して付き添いをされたこのことです。この入院中にプレイルームでの「おはなしの会」をご友人に依頼され、退院後もボランティアの方々とは病院とをつなぐパ

イブ役であるコーディネーターを引き受けられたとのことです。このときの御体験から自らもボランティア活動を始められ、1995年2月、おはなしと本の会や創作の会、音楽など色々な活動を行うボランティアグループ「にこにこトマト」を立ち上げその事務局代表をされています。

講演では、100枚近いスライドで年間の時折折りの行事や活動の様子を示してくださいました。登場する子ども達の表情の素晴らしさと一緒に活動されているボランティアの方々のお姿には、思わず笑みや涙が誘われ、強烈な印象を受け、非常に感動いたしました。

特に、神田さんの『病院とは普通も出来る』、『色々な笑顔がある』、葉が重く深く心に残りました。
 の生活に活動が加わる所』、『何で』、『子どもが望むように』と言う言

全国病児保育協議会 常任協議員会 議事録

と き：平成15年7月20日(日)9:30～12:00
 ところ：千里ライフサイエンスセンター 603号室

【議事】

1. 研修委員会(二宮委員長より)
 平成16年度以降の研修会開催地の持ち回り制を提案

【決定事項】

研修会開催地は持ち回りとする。

2. 広報委員会(藤本委員長より)
 現在はニュースを年4回発行しているが、総会特集号を追加し年5回発行としたい。

【決定事項】

ニュースは年5回発行(協議会ニュース4回+総会特集号) 予算は組み込む
 常任協議員会での決定事項をニュースに載せる。「議事録は自由に閲覧できる」と掲載する。
 議事録署名人は常任協議員出席者の中から2名選出。署名人に議事録を確認してもらいその後常任協議員に完成した議事録を送る。(今回は帆足暁子先生・野原八千代先生)
 病児保育ポスターについて。今回の研修会で加盟施設に配布する。

ポスター1枚 A4:100円 A3:200円(施設名・住所等入り)で販売してはどうか?

【決定事項】

ポスターを上記価格で販売する。ポスター申し込み先は(株)関西共同印刷所とする。

3. 総務委員会(宮田委員長より)

【決定事項】

マニュアルは、関西共同印刷所に販売を委託する。
 送料を含んだ1冊の価格は、会員1冊2,300円・非会員1冊3,300円。

4. 総会議長選出

中野こども病院 木野 稔先生に決定。

5. 常任協議員増員の提案

協議会加盟施設も増え、協議会運営について考える時期である。常任協議員増員および「協議会あり方委員会」設立を提案したい。

【決定事項】

常任協議員増員メンバー候補(12名)
 赤平幸子(青森:病児保育ことりの森)
 深谷憲一(福井:ひかり病児保育園)
 福富 悌(岐阜:福富医院)
 井崎和夫(横浜:あおぞら病後児保育室さくらんぼ)
 前田敏子(名古屋:なずな病児保育室)
 木野 稔(大阪:中野こども病院)
 松本良文(京都:宇治病院乳幼児健康支援デイサービスセンター)
 小田文江(大阪:すみれこどもケアルーム)
 増田 宏(広島:ますだ小児科 病児保育室パンピ)
 高崎好生(福岡:福岡市西部病児デイケアルームおもちやばこ)
 日高伸一(宮崎:ひよこ保育園)
 南 武嗣(鹿児島:みなみクリニック ダーグヘム)

研修会は以下のとおり開催
 平成16年は日程未定横浜で開催(井崎和夫先生)
 平成17年7月17日(日)～18日(月祝)岡山で開催(青

木佳之先生)
 6. 次回常任協議員会日程

【決定事項】

常任協議員会は年3回とする(1回は研修会時に開催)

第13回全国病児保育協議会 総会 議事録

日時：平成15年7月20日(日)17:40～18:10
 場所：千里ライフサイエンスセンター

一. 会長挨拶(藤本保会長より)

一. 議長選出

中野こども病院 木野 稔 先生を選出。

今回の総会は、参加施設64施設+委任状70施設=134施設で、加盟施設数(248施設)の過半数を超えているため成立する。

一. 議事

平成14年度事業報告

研修委員会より(二宮剛美委員長)

平成14年 6月1～2日 第7回施設長・主任研修会(オオサカサンパレス)

平成14年 7月14日 第1回研修委員会 東京

平成14年 9月5日 第2回研修委員会 大阪

平成14年 10月13日 第3回研修委員会 大阪

平成14年 12月7～8日 第11回スタッフ研修会(大阪千里ライフサイエンスセンター)

調査研究委員会より(平田ルリ子委員長)

(1) 委員会開催

1)平成14年7月14日(日) 第1回委員会

【議事】

「病児保育事業稼働実績調査(入室状況)」の分析

「病(後)児保育室自己評価基準」の修正作業

2)平成15年3月8日(土) 第2回委員会

【議事】

「病(後)児保育室自己評価基準」の全国調査について

「病(後)児保育実施施設の実態調査」について

「疾病別利用期間調査」サンプリング調査について

(2) 調査

1)「平成13年度病児保育事業稼働実績調査(入室状況)」

調査期間 平成13年度

結果報告 平成15年6月に、回答いただいた施設のみ

に報告書送付

(3) 研究事業

1)「病(後)児保育室自己評価基準」の完成

H14年6月 「病(後)児保育室自己評価基準(案)」公表

H15年3月 検討し完成。全国調査の準備

広報委員会より(藤本文孝委員長)

年5回のニュースの発行

ニュースの内容の改善



総務委員会より(宮田章子委員長)
平成14年6月1日(土) 常任協議委員会 (大阪サンパ
レス)
平成14年7月14日(日) " (東京八重洲
ルビーホール)
平成14年12月7日(日) " (千里ライフ
サイエンスセンター)
平成15年2月9日(日) " (大分県総合
文化センター)

平成14年度決算報告(宮田章子総務委員長より)
特に質問はなし。

【挙手で承認】

監査報告(監事:青木佳之先生より)

収入・支出および決算処理は適正に行われていた。監査
報告の書類が資料として入っていないので、次回からは入
れるように。

<平成15年度事業計画>

研修委員会より(二宮剛美委員長)
平成15年7月19日 第1回研修委員会 大阪
平成15年7月20~21日 第13回全国病児保育協議会
総会・研修会(大阪 千里ライフサイエンスセンター)

調査研究委員会より(平田ルリ子委員長)

(1) 調査

- 1) 「病(後)児保育自己評価基準」全国調査
実施期間 平成15年4月1日~5月31日
結果報告 平成15年7月の研修会にて報告
- 2) 「病(後)児保育施設実態調査」の全国調査
実施期間 平成15年5月~6月
- 3) 「疾病別利用期間調査」サンプリング調査
実施期間 平成15年5月
- 4) 「平成14年度病児保育事業稼働実績調査」
実施期間 平成15年6月

(2) 研究事業

- 1) 自己評価基準の取扱いについて
- 2) 病(後)児保育室実態調査結果と考察
- 3) 稼働実績調査の分析と検討

広報委員会より(藤本文孝委員長)
年5回のニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号)
6月、8月、9月、12月、3月の5回
病児保育ポスターの作成
HPの拡充

メールマガジンの発行を模索

総務委員会より(宮田章子委員長)
平成15年7月4日(金) 総務委員会 (インターコ
ンチネンタル東京ベイ)
平成15年7月20日(日) 常任協議委員会 (千里ライフ
サイエンスセンター)
平成15年 未定 " (未定)

平成15年度予算案(宮田章子総務委員長より)
常任協議委員会での決定事項(常任協議員を12名増員・
協議会あり方検討委員会立ち上げ等)を考慮し、再度予算
を編成する。

【挙手で承認】

一. その他

- 1) 次回研修会実行委員長となった井崎和夫先生(横浜:
あおぞら病後児保育室さくらんぼ)よりご挨拶
- 2) 宮田副会長より
今回新たに常任協議員として任命された先生方を紹介
赤平幸子(青森:病児保育ことりの森)
深谷憲一(福井:ひかり病児保育園)
福富 悌(岐阜:福富医院)
井崎和夫(横浜:あおぞら病後児保育室さくらんぼ)
前田敏子(名古屋:なずな病児保育室)
木野 稔(大阪:中野こども病院)
松本良文(京都:宇治病院乳幼児健康支援サービスセ
ンター)
小田文江(大阪:すみれこどもケアルーム)
増田 宏(広島:ますだ小児科 病児保育室バンビ)
高崎好生(福岡:福岡市西部病児デイケアルームおもちゃ
ばこ)
日高伸一(宮崎:ひよこ保育園)
南 武嗣(鹿児島:みなみクリニック ダーグヘム)

一. 閉会挨拶(宮田章子副会長より)



平成15年母子保健家族計画全国大会(健やか親子21全国大会)開催要項 抜粋

期 日 平成15年11月6日(木)~7日(金)
会 場 富山県民会館
メインテーマ
「健やか親子ではぐくむ未来 ~水と緑といの
ちが輝く~」
大会日程
第1日目 11月6日(木)
(1)開 会 13:00~ (2)アトラクション
(3)式 典 13:30~14:30
(4)特別講演 14:30~16:00
「40歳からの自分さがし」
第2日目(金)
(1)シンポジウム 10:00~12:00
「子どもの生と性」
(2)閉 会 12:00

全国病児保育協議会事務局

〒870-0943 大分県大分市大字片島83-7 大分こども病院気付

電話:097-567-0050(代表) F A X:097-568-2970

担当:伊東 美紀